

2022 年度第 2 回情報教育研究委員会データサイエンス分科会議事概要

I. 日 時：令和 4 年 5 月 23 日（月）10：00～11：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：渡辺主査、今泉委員、後藤委員、土方委員、大原アドバイザー、辻アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. データサイエンス・AI 授業実践研究ワークショップについて

（1）開催要項案が提示され、ワークショップタイトル、日時、Zoom 開催、概要、講演・意見交換の実施が確認された。

- ・ 概要でリテラシーレベルとの表記があり、分かるのかとの意見があったが、対象者がデータサイエンス AI 教育に取り組んでいる教員に限定されているためモデルカリキュラムを認識しており、また、授業設計等手探りの部分もあると思われ、申込を検討する教員には理解されるのではないかと判断となった。

（2）具体的な講演内容について、1 回目と 2 回目の両方について、項目案が提示・説明され、以下の検討を行った。

- ・ 1 回目は、何から始めたらよいのか分からない教員が多いこと、文系の学生を対象に考えていること、大学の特色を出したい希望があること、興味・関心を持たせるために手を動かす演習を含めていること、教育の価値を高めるオープンバッジのことについて説明を予定しており、特に、環境やモチベーションを持たせることを考えている。
- ・ 2 回目は、実践事例の紹介として、データビジュアライゼーション、テキストマイニング、画像処理、直線回帰分析、ビジュアル言語でロボット操作の説明を予定しており、時間に余裕があれば Jupyter Notebook の紹介なども考えている。また、1 回目の反響により構成等の変更もしたい。
- ・ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度を目指している大学があり、アドバイスがあれば追加してはどうか。
- ・ 学生にとって、授業構成の順番を間違えると理解しにくい可能性があるので、説明に含めたい。ワークショップ開催にあたり、授業の観点的な説明も含められないか。
- ・ 社会との接続を考え、人文系の教員が指導する方向に向かうことが良いのではないか。
- ・ 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「リテラシーレベル」の共通理解が必要ではないか、大学により、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請するための組み立て方を求めているのではないか。
- ・ 1 回目は、手探り段階への対応を考えることにして、オープンバッジの話は次回以降に行うことにし、場合により 3 回目を検討する。また、2 回目に事例を紹介するが、授業の組み立てを考えられる説明になるよう、1 回目の反響から調整することにした。
- ・ 教員の課題として、何をどこから手を付ければ良いか分からない場合を想定し、取組みや授業への準備についてのアドバイスとして、授業の作り方の説明としてはどうか。
- ・ 以上の検討を踏まえ、開催要項を確定させ、今週中に案内を発信することにした。

V. 今後のスケジュール

6 月 30 日にオンラインで、データサイエンス・AI 授業実践研究ワークショップを開催することになっている。